

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

アザミウマ類、コナジラミ類の施設栽培終了後の 野外への飛び出し防止対策の徹底について

昨年、アザミウマ類やコナジラミ類が媒介するキュウリ黄化えそ病やトマト黄化葉巻病・黄化病が多発生し、大きな被害を受けた圃場がありました。これらの害虫は、栽培終了後に野外に飛び出し、露地作物や雑草で夏を越した後、秋に再び圃場に侵入してウイルス病を伝搬するなどの被害をもたらします。

つきましては、施設野菜類、花き類での被害を防ぐため、下記事項を参考とし、これら害虫の野外への飛び出し防止対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. 現在の状況

5月15～22日にキュウリ7圃場、トマト8圃場を調査した結果、アザミウマ類の発生は平年よりやや多く、コナジラミ類の発生は平年並であったが、圃場によっては多発生しているところが見られた。

2. アザミウマ類、コナジラミ類の季節ごとの生息場所

現在圃場で発生しているアザミウマ類、コナジラミ類は、今後、野外に飛び出し、秋季に再び圃場に侵入する。このため、秋季の圃場で発生を抑えるには、まず、圃場からの飛び出しを防ぐことが重要である。

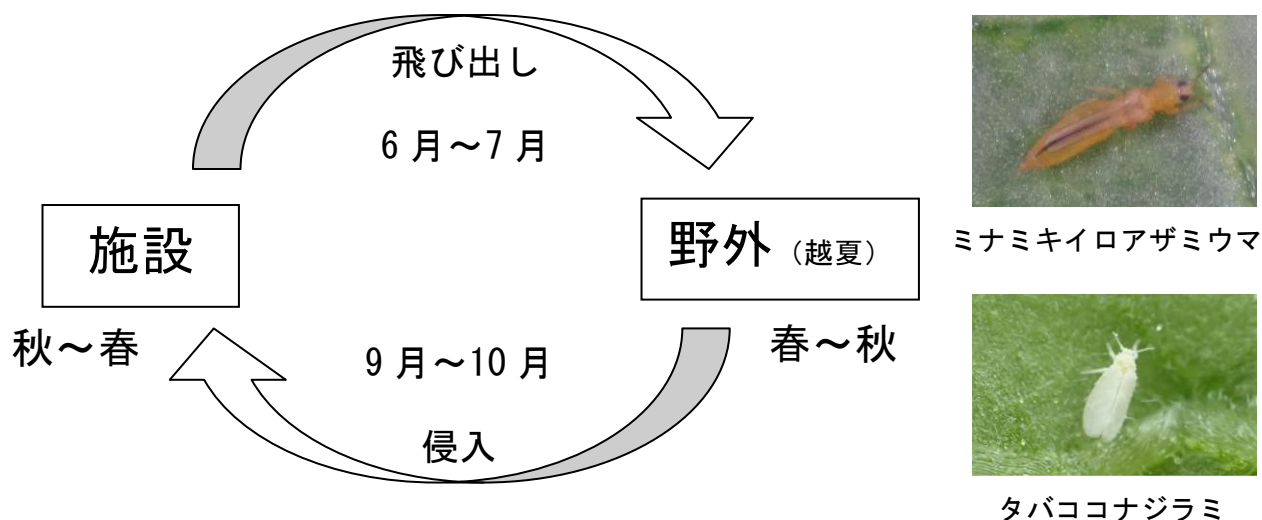


図1 アザミウマ類、コナジラミ類の生息場所の推移

3. 栽培中の防除対策

- 1) 栽培終了までアザミウマ類・コナジラミ類の防除を徹底する。
- 2) アザミウマ類・コナジラミ類の生息・増殖源となる施設内外の雑草を除去する。
- 3) 伝染源となるウイルス病罹病株は、抜き取り、圃場外で土に埋めるか袋に入れる等して適切に処分する。
- 4) 栽培終了時まで、施設開口部を防虫ネット等（0.4mm 程度）で被覆し、アザミウマ類やコナジラミ類の施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐ。

4. 栽培終了後の防除対策

施設内に残ったアザミウマ類やコナジラミ類の確実な死滅と、ウイルス病罹病株を確実に枯死させるために、以下の手順を参考に十分な期間を確保し、施設の密閉処理（蒸し込み）を必ず行う。

蒸し込みの手順

1. 施設内の雑草は除去しておく



2. 植物は誘引したまま株元から切る。
※倒して圃場内に積むと内部の温度が上がりきれず枯れにくい。また、根が繋がって緑が残っている（植物体内に水分が残っている）と虫が生き残ってしまうため、根を切断し立った状態で確実に枯らす。

又は

キルパー処理して枯らす。
※キルパーの古株枯死の登録がある作物（キュウリ、トマト、ミニトマト等）では、植物は株元から切らない状態でキルパー処理を行う。



3. 施設を密閉し、蒸し込みを行う

- ↓ ※施設内の設備が傷まないように対策を行う。
※晴天が続いた場合は5日程度、曇雨天が続いた場合は7日以上密閉を行う。

4. 植物が完全に枯れたのを確認し、残さを持ち出す

- ↓ ※手で茎がパキッと折れる状態を必ず確認する。
他の病害が残さに付いて伝染源となる可能性もあるため、残さは可能な限り持ち出し処分する。

5. 圃場内に植物のない状況を2週間以上作る



6. 土づくり、土壌消毒等作業に入る

5. 野外の雑草の除去

施設内から飛び出したコナジラミ類やアザミウマ類は、近くの雑草や寄主作物など多くの作物に寄生して増殖するため、増殖源となる野外の雑草は徹底して除去する。

6. 地域ぐるみの防除活動

アザミウマ類やコナジラミ類は、施設野菜類のみでなく、花き類など多くの作物に寄生するため、地域全体で一体となって飛び出し防止等の対策を行う。

また、これらの害虫が媒介するウイルス病の罹病株は、抜き取り、圃場外で土に埋める等適切に処分する。ただし、トマトモザイクウイルスやキュウリ緑斑モザイクウイルス等の土壌伝染性ウイルスに罹病した株は土に埋めない。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085